

# 卒業生の成長につながる動機づけとなった体験

○水澤晴代 相模原看護専門学校

**【目的】** 卒業生の就業状況調査を行い成長につながる動機づけとなった要因を明確にする。

**【方法】** 対象：A校平成24年から令和元年度3月卒業生。方法：“成長へつながる動機づけとなった体験”に関する質問紙調査。内容は、体験の有無、体験のエピソードの記述。**倫理的配慮**：郵送により研究概要・目的、倫理的配慮について文書で説明し、質問紙への回答をもって同意とみなした。

## 【結果】

1. 質問紙調査回収数は181名、有効回答数179名のうち成長体験有135名(75.4%)、無が39名(21.8%)、成長体験の自由記載がある人104名(58.1%)であった。

2. 成長体験有とした104名のエピソードの記述を質的に分析した。その結果、コード数は141、『患者との出会い』『看護モデルとの出会い』『自己の成長』の3つのカテゴリーと8サブカテゴリーを抽出した。分析の信頼性・妥当性を担保するために質的研究者の熟達者からの助言を得た。

成長へつながる動機づけとなった体験のサブカテゴリーは、コード数の多い順に<患者・家族からの感謝>49コード、<患者の回復支

援>26コード、<やりがいの実感>17コード、<先輩や上司・周囲からの承認>16コード、<患者との関わりによる自己成長の実感>9コード、<力をつけ患者の期待に応えた>9コード、<看護モデルとの出会い>8コード、<後輩指導での自己成長>7コード。

またコード全体を俯瞰し、卒業生の体験は対象(人物)」と「(本人の)感情」に分類して関係性を見た。対象の多くは、「患者・家族」になり、それ以外は、「上司(管理者)」、「エキスパート(専門看護師、先輩看護師)」、「同僚」、「後輩」であった。

本人の感情は、「承認」「達成感」「共感」「未熟感」「向上心(欲求)」の5つが上がり、感情の全体としては他者からのメッセージ(患者や承認)、自己の振り返り(達成感やさらなる欲求など)に大きく分けられた。

対象と感情の関係性を見ると、看護の対象である「患者・家族」の体験は、承認や達成感、未熟感、向上心まで、あらゆる感情を抱くものとなっていた。また、看護師長などの管理者と、自分が指導する後輩が、いずれも自分の看護を承認する者であり、向上心を抱かせる存在になっていた。